育種 (Japan. J. Breed.), 36 : 434~440 (1986)

夏作物新品種の紹介 (I)

—昭和 61 年農林水産省登録—

池 橋 宏¹⁾

(農業生物資源研究所, 筑波郡谷田部町, 〒 305)

New Summer Crop Cultivars Registered by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries in 1986

Hiroshi Ikehashi

Genetic Resources Coordinator, *National Institute of Agrobiological Resources*, Yatabe, Tsukuba, 〒 305

KEY WORDS : New Cultivar, paddy rice, upland rice, sweet potato, potato, soybean.

昭和 61 年 6 月 6 日付で農林水産省登録となった夏作物新品種について, 農林水産技術会議事務局の資料「昭和 61 年農林水産省育成農作物新品種 (夏作物・園芸作物等)」をもとに, 夏作物の新品種の来歴, 特性概要, 新品種命名の由来について紹介する。

The following new varieties of summer crops were registered by the Ministry of Agriculture, forestry and Fisheries (MAFF) in June 1986, and were released. Their descriptions as well as breeding procedures are summarized herewith based on the publication entitled: The New Crop Varieties released by MAFF (Summer and Horticultural Crops) issued by the Secretariat of the Research Council.

水 稲 Paddy Rice

サオトメ (水稻農林 278 号), 旧系統名: 北陸 113 号, 農林水産省北陸農業試験場育成。

1970 年に同試験場において, 多収性で良質のレイホウと早生・穂重型でいもち病に弱い北陸 84 号との F₁ を母とし, いもち病抵抗性強のトドロキワセを父として交配を行い, 1973 年に F₄ で個体選抜し, 以後系統育種法により選抜・固定を行って, 1979 年 (F₁₀) 以後北陸 113 号の系統名で地域適応性を検定してきたもので, 1986 年度は雑種第 17 代に当たる。

稈長はアキヒカリより長く, 中に属し, 穂長はアキヒカリ並である。穂数はアキヒカリよりもかなり多く, 偏穂数型の梗種である。芒は無く, 稈色, 稈先色は黄白で脱粒性は難である。粒大は中で, アキヒカリよりやや小さく, 腹白, 心白および乳白は極く少なく, 見かけの品種はハウネンワセとほぼ同等で, 食味はハウネンワセ並かやや良く, 上・下である。

育成地での出穂期はハウネンワセと同じで, 岐阜県高冷地帯では, トヨニシキに比べて約 5 日早く, 早生の晩である。耐倒伏性はやや強く, いもち病抵抗遺伝子は *Pi-a* をもっと推定され, 葉いもち耐病性はハウネンワセとほぼ同等のやや強で, 穂いもち耐病性は同品種よりやや強く, やや強, 白葉枯病および縞葉枯病の耐病性は弱である。穂発芽性はレイメイとほぼ同等で, 中に評価される。

登熟および熟色が良く, 収量性は育成地ではレイメイより多収, 岐阜県高冷地帯ではアキユタ

1986 年 7 月 7 日受領

¹⁾ 遺伝資源情報官

カとほぼ同等かやや多収である。

東北南部以南で高冷地帯を含む 早生品種地帯に適する。岐阜県で奨励品種に採用する予定。

命名は、田植後のみずみずしさを表現したもの（早乙女, Saotome）。

Saotome (Paddy rice Norin 278, non-glutinous): Selected at Hokuriku Nat. Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1970 between F_1 of Reihou/Hokuriku 84 and Todorokiwase, early, medium-statured, tillering type with superior palatability, moderately resistant to blast disease, promising for hilly areas in the temperate region.

アキチカラ（水稻農林 279 号），旧系統名：北陸 125 号，農林水産省北陸農業試験場育成。1976 年に同試験場において，短・強稈，長穂の北陸 101 号を母とし，多収性のアキヒカリを父として交配を行い，1979 年に F_5 で個体選抜し，以後，系統育種法により選抜・固定を行い，1983 年 (F_9) からは北陸 125 号の系統名で，地域適応性を検討してきたもので，1986 年度は雑種第 12 代に当たる。

分げつ期の草丈は中程度であり，成熟期には止葉は立型で，稈長はハウネンワセより約 10 cm 短く，短稈であり，穂数はアキヒカリよりやや多く，偏穂重型梗種である。籾および稈先色は黄白で芒はなく，脱粒性は難である。見かけの品質はトドロキワセ並の中の上で，食味はハウネンワセより明らかに劣り，中の下である。成熟期はアキヒカリより遅れ，トドロキワセとほぼ同時期の早生の晩に相当する。耐倒伏性は極強で，短稈である。いもち病耐病性については，真性抵抗性遺伝子 *Pi-a* をもち，葉いもち耐病性はハウネンワセと同等ないしやや強い。穂いもち耐病性はハウネンワセとほぼ同等の中である。白葉枯耐病性は中である。穂発芽性はやや易で，耐冷性はやや弱である。収量性はトドロキワセに比べて 10% 前後高くアキヒカリより多収である。

東北南部から北陸地域にわたる平担肥沃地帯に適し，新潟県は他用途米用の認定品種，石川県は同指導品種に採用する予定である。

命名は，秋に力強く実ることによる。（秋力, Akichikara）。

Akichikara (Paddy rice Norin 279, non-glutinous): Selected at Hokuriku Nat. Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1976 between Hokuriku 101 and Akihikari, early, short erect type with palatability inferior to that of standard varieties, moderately resistant to bacterial leaf blight and to blast disease with true resistance gene *Pi-a*, outyielding Akihikari, a high yielder, promising for fertile plains in central to northern Japan.

サチイズミ（水稻農林 280 号），旧系統名：中部 43 号，愛知県農業総合試験場山間技術実験農場育成。1975 年，同実験農場において，耐冷性の優れた系 283（ハウレイ）を母とし，いもち病に強く良質・多収であるが耐冷性が不十分である奥羽 295 号（北陸 84 号／奥羽 269 号）を父として交配を行い，翌年奥羽 295 号を母にその F_1 を父として戻し交配し，1978 年個体選抜を実施し，以後系統育種法により選抜・固定を行ってきたもので，1982 年からは中部 43 号の系統名で地域適応性を検定し，1986 年度は雑種第 10 代に当たる。

稈長はアキヒカリより長く，トヨニシキよりやや短いやや短稈種で，穂数はアキヒカリよりわずかに多い中間型の梗種である。粒着密度は中，短芒をわずかに生じ，稈先色は黄白で，脱粒性は難である。粒大は中で，品質は中上で，食味はハウレイ，ハウネンワセと同等かやや良く，上下である。出穂期はアキヒカリより 1~2 日遅く，成熟期はアキヒカリより約 2 日遅く，極早生に属する。耐倒伏性はアキヒカリに劣るもののやや強で，トヨニシキには優る。耐冷性はアキヒカリ，ハウネンワセより明らかに優り，ヨネシロとほぼ同等の強である。いもち病真性抵抗性遺伝子 *Pi-a* と *Pi-i* を持つと推定され，圃場抵抗性は葉いもち，穂いもち共にハウレイ並で，強に属する。白葉枯病抵抗性は中である。収量はアキヒカリ，ハウネンワセより多収である。本品種は温暖地山間部

において普及すると見込まれる。群馬県が奨励品種に採用する予定である。

命名は、毎年の豊作で泉のように幸が訪れることを願う意味から（幸泉, Sachiizumi）。

Sachiizumi (Paddy rice Norin 280, non-glutinous): Selected at Mountain Region Research Farm of Aichi Prefectural Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1976, i.e. Oou 295//Kei 283 (Hourei)/Oou 295, very early, medium-short type with good palatability, fairly resistant to lodging, as tolerant to cool weather as the highly tolerant variety Yoneshiro, possessing medium resistance to bacterial blight, and high field-resistance to blast with true resistance genes *Pi-a* and *Pi-i*, outyielding the high yielding controls such as Akihikari, promising for hilly areas in the temperate region.

アスカミノリ（水稻農林 281 号），旧系統名：南海 73 号，宮崎県総合農業試験場育成。1972 年，同試験場において，良質・多収の日本晴を母とし，中晩生・良質・多収の南海 56 号を父として，交配を行い， $F_1 \sim F_3$ は温室内にて世代を進め，1973 年 F_4 で穂別系統として個体選抜を行い，以後系統育種法により選抜・固定を計り，1978 年より南海 73 号の地方系統名で，地域適応性を検定してきたもので，1986 年は雑種第 17 代に当たる。

稈長はフヨウより約 1 cm 程度短く，穂数はフヨウよりやや少ない中間型の粳種である。短芒が稀にあり，稈先色は黄白，脱粒性は難である。粒大はやや小で，品質は上下でフヨウよりやや優る。食味はフヨウと同程度である。出穂期はフヨウより 2 日程度早く，中生の中に属する。耐倒伏性はフヨウよりやや強い。いもち病抵抗性遺伝子 *Pi-a* を持つと推定され，圃場抵抗性は葉いもちがフヨウ並のやや強で，穂いもちがフヨウよりやや強い。白葉枯病抵抗性はフヨウよりやや弱く，やや弱である。収量はフヨウにまさり，多収である。温暖地西部の平坦地帯の中生種として適する。奈良県が奨励品種に採用する予定である。

命名は，奈良県で多収であることによる（飛鳥実, Asukaminori）。

Asukaminori (Paddy rice Norin 281, non-glutinous): Selected at Miyazaki Prefectural Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1972 between Nipponbare and Nankai 56, medium-maturing type similar to 'Huyoh', moderately resistant to blast, but susceptible to bacterial leaf blight, outyielding Huyoh, promising for plains in the western temperate region.

ミナミヒカリ（水稻農林 282 号），旧系統名：南海 75 号，宮崎県総合農業試験場育成。1972 年，同試験場において，白葉枯病抵抗性を目標に，多収・良質・強稈の南海 55 号（ミナミニシキ）を母とし，白葉枯病抵抗性の宮特 1 [(愛知旭/合成短稈) F_2 //早稲愛国 3 号] を父として，交配を行い，同年夏に F_1 を養成し，1973 年に温室で $F_2 \sim F_3$ を世代促進し，1974 年 F_4 で穂別系統として個体選抜を行い，以後系統育種法により選抜・固定を計り，1978 年より南海 75 号の地方系統名を付し，地域適応性を検定してきたもので，1986 年度は雑種第 16 代に当たる。

稈長はミナミニシキ，ミズホ並のやや短で，穂数はミナミニシキとミズホの中間の，中間型粳種である。止葉はやや長く，立ち，稈先色，穎色は黄色，脱粒性は中である。粒大は中で，品質は中上であるが，ミナミニシキ，ミズホよりやや優り，食味はミナミニシキ，ミズホにまさり，上下である。出穂期，成熟期ともミナミニシキ並で，暖地では晩生の晩に属する。耐倒伏性はミズホと同等以上に強く，強に属する。いもち病抵抗性遺伝子型は + と推定され，葉いもちの抵抗性はツクシバレ並のやや弱である。穂いもちの抵抗性はニシキホマレより強く，中である。白葉枯病抵抗性品種群別では金南風群に属し，圃場抵抗性はミナミニシキ，ミズホより明らかに強く，日本晴にまさり，やや強である。収量性は多収品種であるミナミニシキ，ミズホ並に多収である。九州南部の平坦部に好適する。宮城県および鹿児島県が奨励品種に採用する予定である。

命名は，九州南部の良質・良食味品種であることによる（南光, Minamihikari）。

Minamihikari (Paddy rice Norin 282, non-glutinous): Selected at Miyazaki Prefectural Agr.

Exp. Stn. from a cross made in 1972 between Nankai 55 and Miyatoku 1 (an experimental line for bacterial-blight-resistance), late-maturing, medium-short type with good grain quality and palatability, resistant to lodging, showing a high level of resistance to bacterial blight, but medium resistance to blast, yielding as much as high yielding controls, promising for southern Kyushu.

ツクシホマレ (水稻農林 283 号), 旧系統名: 南海 91 号, 宮崎県総合農業試験場育成. 1974 年, 同試験場において白葉枯病抵抗性を目標に南海 61 号を母とし, 白葉枯病抵抗性の宮系 291-5 (南海 43 号, トヨタマ/西海 100 号, レイハウ) を父として交配を行い, 同年に F_1 を養成, 翌年 $F_2 \sim F_3$ 集団を簡易ハウス内密播栽培で世代を促進し, 1976 年 F_4 で穂別系統として個体選抜を行い, 以後, 系統育種法により選抜・固定を行ってきたもので, 1983 年より南海 91 号の地方系統名を付し, 地域適応性を検定し, 1986 年度は雑種第 14 代に当たる.

稈長はニシホマレより 7 cm 程度短い短稈種で, 穂数はニシホマレよりかなり多い穂数型の粳種である. 粒着密度はやや疎で, 稈先色は黄白, 脱粒性は難である. 粒大は中で, 品質は中上でニシホマレ並である. 食味は中上でニシホマレにまさる. 出穂期はニシホマレとほぼ同じで, 成熟期は 2 日程度遅く, 中生の晩に属する. 稈の太さは中, 耐倒伏性はニシホマレより強く, 強に属する. いもち病抵抗性遺伝子 *Pi-a* を持つと推定され, 圃場抵抗性は葉いもち, 穂いもちともにニシホマレ並かややまさる. 白葉枯病抵抗性は黄玉群に属し, 圃場抵抗性はニシヒカリ並のやや強である. 収量は多収品種, ニシホマレ並で多収である. 暖地および温暖地西部の平坦地に適する. 本品種は作付が集中している筑後平坦肥沃地のニシホマレの一部にかかわって普及するものと見込まれる. 福岡県が奨励品種に採用する予定である.

命名は福岡県に適する良い品種であることによる (筑紫誉, Tsukushihomare).

Tsukushihomare (Paddy rice Norin 283, non-glutinous): Selected at Miyazaki Prefectural Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1974 between Nankai 61 and Miyakei 291-5, medium-late-maturing, short tillering type with superior grain quality and palatability, resistant to lodging, moderately resistant to blast and fairly resistant to bacterial leaf blight, yielding as much as high yielding controls, promising for fertile plains in southern Japan.

陸 稲 Upland Rice

ナエバハタモチ (陸稲農林糯 56 号), 旧系統名: 関東糯 131 号, 茨城県農業試験場育成.

1969 年に同試験場において, 早生で生育量は大きいが稈の弱い農林糯 20 号を母に, 短強稈の関東糯 98 号を父として交配を行い, 以来同場において極早生系統として選抜・固定を行ってきたもので, 1979 年度より関東糯 131 号として地域適応性を検討し, 1986 年度は雑種第 16 代に当たる.

幼苗草型は中間型で, 出穂期頃からの草姿はワラベハタモチと同様, やや陸稲型に分類される. 稈長はワラベハタモチと同程度のやや短稈で, 穂数はやや多で, 偏穂重型の糯種である. 少し短芒を生じ, 稈先色は紫, 粒着密度は中である. 脱粒性はワラベハタモチにやや劣り, 中～やや難に分類される. 粒大は大, 玄米品質はフクハタモチと同程度の中上である. とう精歩留りはワラベハタモチよりやや良い. 餅としての食味はワラベハタモチと同等で, 中中である. 出穂期・成熟期とも関東地方の極早生である. 稈はやや細いが, やや剛く, 強稈で耐倒伏性が強い. いもち病耐病性は, 葉いもち, 穂いもちともに強であり, 推定遺伝子型は + (新 2 号型) である. ごま葉枯病の被害はワラベハタモチよりやや多いが, フクハタモチよりかなり少なく, 枯上りも少ない. 耐干性は強で, 早生群では最も強い部類に属する. 精歩合が高く, ワラベハタモチより多収である. 北陸地方および関東地方北部の陸稲栽培地帯に適し, とくに早期栽培や野菜, 花きなどとの輪作に適する. 新潟県で, 認定品種として採用する予定である.

命名は、栽培地域、苗場山麓にちなむ（苗場畑糯，Naebahatamochi）。

Naebahatamochi (Upland rice Norin 56, glutinous) : Selected at Ibaraki Prefectural Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1969 between Norin gl. 20 and Kanto gl. 98, very early maturing, medium-short type with good milling quality and palatability, resistant to lodging, highly resistant to blast as well as to drought, outyielding the control 'Warabehatamochi', promising for upland cultivation in the Kanto and Hokuriku regions.

ナツハタモチ（陸稲農林糯 57 号），旧系統名：関東糯 140 号，茨城県農業試験場育成。1973 年に同試験場において，良質のハタキヌモチを母，多収性のハタフサモチを父として交配を行い，以来同場において選抜・固定を計り，1982 年度より関東糯 140 号として地域適応性を検討してきたもので，1986 年度は雑種第 13 代に当たる。

草姿は直立型で受光態勢が良い。稈長はやや短でハタフサモチより 10 cm 程度短い，穂長および穂数は同等。短芒を少し生じ，稈先色は黄白，粒着密度は中で，脱粒性は難である。玄米粒大および光沢はハタフサモチと同じ中で，品質はハタフサモチよりややすぐれ，中上である。とう精歩留りはやや高く，餅としての食味はハタフサモチよりすぐれ上下に分類される。出穂期はハタフサモチより 1 日程度早い，成熟期は 4 日ほど早く，関東地方での熟期は中生の中に分類される。耐倒伏性は中晩生種の中で最も強い部類に属する。いもち病耐病性は，葉いもちが極強，穂いもちが強であり，推定遺伝子型は＋である。ごま葉枯病の被害はハタフサモチと同程度である。耐干性はハタフサモチよりややすぐれ，強である。穂発芽性は難である。ハタフサモチと同等に多収である。本品種は耐倒伏性が強く，作柄が安定しているので野菜跡の肥沃畑や，畜産地帯で有機物投入量の多い畑などを中心にハタフサモチに替り普及するものと見込まれる。鹿児島県で早期栽培用の奨励品種として採用する予定である。

命名は，真夏に実る（南九州）陸稲の意（夏畑糯，Natsuhatamochi）。

Natsuhatamochi (Upland rice Norin 57, glutinous) : Selected at Ibaraki Prefectural Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1973 between Hatakinumochi and Hatafusamochi, medium-maturing, short erect type with good grain, good milling characteristics and superior palatability, highly resistant to lodging, extremely resistant to blast, more tolerant to drought than Hatafusamochi, and yielding as much as Hatafusamochi, promising for very fertile areas, especially heavily manured areas or in succession to vegetables.

かんしょ Sweet potato

シロサツマ（かんしょ農林 39 号），旧系統名：関東 93 号，農林水産省農業研究センター育成。1977 年，九州農業試験場作物第二部作物第 1 研究室（指宿市）において，高でん粉多収，耐病虫性を目的として，高でん粉で病虫害抵抗性を有する CS 69136-2 を母とし，多収でやや高でん粉のタマユタカを父として交配を行い，1978 年に育成地において交配種子を播種し，実生第 1 年目の個体選抜試験を行った。1982 年から関東 93 号の系統名を付し，検定試験に供試してきたものである。

草型はほふく型，頂葉色は緑褐色で，葉色は深緑色，葉型は波・歯状心臓形である。塊根の皮色は黄白で肉色は淡黄色，形状は紡錘形から短紡錘形で，いもの外観は良い。苗床における萌芽性は極良で，苗重は重く，葉色は生育後期まで緑色を保ち，塊根の肥大は晩期肥大型である。育成地における上いも収量はコガネセンガンよりやや少ないが，でん粉歩留りが高く，でん粉収量はコガネセンガン並である。晩植適性は中で，耐肥性は大である。貯蔵性はきわめて良い。黒斑病およびサツマイモネコブセンチュウに強，かいよう病およびミナミネグサレセンチュウにやや強～中，つる割病にはやや弱である。鹿児島県におけるでん粉原料用品種として適する。でん粉歩留りの低いミナミユタカと貯蔵性難のコガネセンガンの一部に代り普及することが見込まれる。鹿児島県が奨励

品種に採用する予定である。

命名の由来は、でん粉原料用の皮色黄白で鹿児島県に普及することによる（白薩摩, Shirosatsuma）。

Shirosatsuma (Sweet potato Norin 39) : Selected at Nat. Agr. Res. Center, from a cross made in 1977 between CS 69136-2 with multiple resistance and Tamayutaka, prostrate type with deep green leaves, producing spindle-shaped yellowish white tuber roots, yielding starch as much as the most productive variety Koganesengan, less deteriorative in storage, resistant to black rot and root knot nematode, and moderately resistant to surface rot and root lesion nematode, slightly susceptible to stem rot, promising for southern Kyushu.

ばれいしょ Potato

トヨアカリ（ばれいしょ農林 27 号）、旧系統名：北海 67 号、農林水産省北海道農業試験場育成。1974 年、同試験場において、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性 (H_1) のツニカを母とし、高でん粉 (25~26%) の WB 61037-4 を父として交配した組合せから選抜した系統である。1983 年からは北海 67 号の系統名で、生産力および地域適応性を検討してきたものである。

草型はやや直立で、草勢が強く、茎の色は赤紫色の斑点をもつ緑である。葉の色は萌芽時には紫色を帯びるが、生育とともにやや淡い緑色となる。花は大きく淡赤紫色である。塊茎は扁球型を呈し、皮色は黄褐色で目の部分に赤紫色の着色がある。塊茎の大きさは農林 1 号より小さいが紅丸より大きい。肉色は淡黄色で肉質はやや粘質である。塊茎の形成はやや遅く、肥大が遅いが、でん粉価は肥大初期から高い。茎葉枯ちよう期は紅丸、農林 1 号並で晩生種に属する。ジャガイモシストセンチュウの寄生型 Ro1 に対する抵抗性遺伝子 H_1 を有し、土壤の線虫密度が低下する。疫病抵抗性遺伝子が $R1$ で、疫病圃場抵抗性は同じ遺伝子型のリシリより強い。ウイルス病は人為接種、圃場での自然感染によっても農林 1 号程度に発病し抵抗性はない。塊茎の軟腐病はやや弱、青枯病抵抗性弱であるが、粉状そうか病抵抗性はツニカ同様発病は極めて少なく、強である。上いも収量は紅丸の 80%、農林 1 号の 90% 程度程度でコナフブキよりやや多い。でん粉価は 20~22% で、農林 1 号、紅丸より 4~5% 高い。従って、でん粉収量は紅丸、農林 1 号より 10~15% 多く、コナフブキ並である。本品種は現在北海道で発生しているジャガイモシストセンチュウに抵抗性であるばかりでなく、疫病、粉状そうか病にも強く、でんぷん粉収量も紅丸を上回る多収品種であることから、紅丸、農林 1 号の一部に代り普及するものと見込まれる。

新品種名の由来は、トヨは豊産性、アカリは線虫被害から守る希望を表わす（豊明, Toyoakari）。

Toyoakari (Potato Norin 27) : Selected at Hokkaido Nat. Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1974 between cyst-nematode-resistant Tunika and WB 61037-4 with high starch content, erect type with medium number of tillers and branches, with purple sprouting leaves which turn green, slightly delayed in tuber formation, belonging to late maturing type, possessing resistance gene H_1 to Ro1 race of cyst nematode, thereby suppressing nematode population, and strong field resistance to late blight with resistance gene R_1 , susceptible to virus diseases, moderately susceptible to bacterial soft rot and susceptible to bacterial wilt, but highly resistant to powdery scab, producing starch yield higher than controls by 10~15%, promising with multiple resistance for Hokkaido.

メイホウ（ばれいしょ農林 28 号）、旧系統名：西海 16 号、長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場育成。1971 年、同支場において、青枯病に強くて品質が良いチヂワを母とし、多収の長系 80 号 (T 6219-45×タチバナ) を父として交配を行い、1972 年春作に実生選抜を行い、1982 年秋から、西海 16 号の系統名を付して各種試験に供試してきた。

茎長はデジマより短く、ニシユタカ並の短茎である。花色は紫で他の品種と区別し易い。いもの

形はデジマよりやや長い楕円形で、皮色はデジマより黄色がやや濃く、淡黄ないし黄白である。目はデジマ並で浅く、外観はデジマ並で良である。食味はニシユタカよりまさり、デジマ並で良である。休眠期間は、ニシユタカより短く、デジマよりやや長いに属し、早晚性は春作、秋作ともにデジマおよびニシユタカよりやや早く中に属する。青枯病抵抗性はデジマおよびニシユタカより強く、農林1号並で強である。そうか病抵抗性にはニシユタカより強く、デジマよりやや強く、やや弱に属する。疫病抵抗性にはデジマ並でやや弱、乾腐病抵抗性はデジマよりやや強く、中である。軟腐病抵抗性および粉状そうか病抵抗性にはニシユタカ並でやや強である。葉巻病およびPVYによるモザイク病抵抗性はデジマより弱く、弱である。本品種は、収量はデジマよりやや少ないが、外観・食味ともに良く、青枯病に強い特性を持っている。また、そうか病、軟腐病、肌あれなどの障害も比較的少ない。これらのことから、連作障害が多い地帯における良質耐病性品種として普及するものと見込まれる。長崎県が奨励品種に採用する予定である。

命名は、有明海、雲仙、多良岳の両峰にちなむ（明峰、Meihou）。

Meihou (Potato Norin 28): Selected at Nagasaki Prefectural Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1971 between Chijiwa and Choukei 80 (T 6219-45/Tachibana), short-statured type with purple flower, producing slightly oval-shaped and yellowish tuber with good palatability, resistant to bacterial wilt and moderately susceptible to common scab, moderately resistant to bacterial soft rot and to powdery scab, moderately susceptible to late blight and powdery scab, medium resistance to dry rot, susceptible to leaf roll and mosaic, yielding slightly less than controls, but superior in tuber quality, promising as a disease-resistant variety for southern Japan.

だいず Soybean

タチナガハ（だいず農林 85 号）、旧系統名：東山 135 号、長野県 中信農業試験場育成。1972 年、同試験場桔梗ヶ原分場において長葉で耐倒伏性の東山 61 号を母とし、大粒良質の東山系 G 627 を父として交配を行い、1973 年に F₁ 養成し、1974～75 年に集団選抜、1976 年 (F₄) に個体選抜を行って、以後選抜・固定を図ってきたもので、1982 年からは東山 135 号は系統名で地域適応性を検定し、1985 年度は雑種第 13 代に当たる。

胚軸の色および花は紫で、小葉は長葉、毛茸は白色である。主茎長は中で、フジミジロやエンレイよりやや短く、分枝数は多である。有限伸育型で、熟莢は褐色を呈する。粒大は中の大であり、褐斑粒、裂皮粒などの障害粒が少なく良質である。開花期は中、成熟期はフジミジロ並で育成地では中の晩に属する。裂莢の難易は中、倒伏抵抗性は強であり、いずれもフジミジロより優れ、エンレイ並かやや優れる。ダイズシストセンチュウ抵抗性は極弱で、連作に不適、ダイズ黒痘病抵抗性は強で、フジミジロやエンレイより強い。ウイルス抵抗性は中で、フジミジロより強くエンレイ並である。収量性は中であるが、フジミジロやエンレイより多収で、とくに晩播で多収を示す。北関東から東山地方の中山間地帯にかけて最も良く適応する、長野県と栃木県で奨励品種に採用する予定である。

命名は、倒伏に強い長葉の品種の意から（立長葉、Tachinagaha）。

Tachinagaha (Soybean Norin 85): Selected at Nagano Prefectural Chushin Agr. Exp. Stn. from a cross made in 1972 between Tosan 61 and Tosan Kei G 627, medium-late maturing, medium-short type with determinate growth, producing high-quality medium-large beans, resistant to lodging, very susceptible to cyst nematode, but resistant to sphaceloma scab, with medium resistance to virus diseases and medium yield, but likely to outyield controls, promising for hilly areas in central Japan.